

髻

搦輪也。髮毛をからまきて、輪にしたるゆるの名也。分テは曲テを假名に書たりけんを、字に書直して誤れるなり。髮毛を曲て結ふを、わけといへり。○中略  
女房私記正月の條に、若宮方童體の間は、半尻に袴、鬢づらをゆふ也。御休息の時ならば、結中金の平もとゆひ也云々、

〔榮花物語三十一見〕一品宮子は、あけくれめかれずかしづき奉らせ給て、御對面などあるべしとあれど、一品にならせ給ぬるは、かたじけなし、御みづらなどゆはせ給ふて、のぼらせ給はんとて、とまりぬ、なべてならずいみじくもてかとづき聞えさせ給、

〔倭名類聚抄三髮〕髻附 唐韻云、髻計反、和名、髮也、四聲字苑云、髻註 屈髮也、

〔箋注倭名類聚抄二髮〕山田本作居濟反、按音計與廣韻合、居濟與玉篇合、此引唐韻作音計爲是、按毛止々利、本取之義、禁秘抄作本鳥、假借耳。○中略 廣韻作縮髮、說文新附云、髻古通用、結、鬢古婦人首飾、琢玉爲兩環、此二字皆後人所加、則知結髻環鬢古今字、

〔伊呂波字類抄人體〕髻モト、リ、音汁 鬢同音選

〔書言字考節用集五體〕髻モト、リ、音汁 鬢同音選

〔兼燭譚三〕高鬢墮髻ノコト

或人ノ席上ニテ、曲舞ニカウクワンモトヒヲ切、半檀ニ枕スト云コトアリ、何人ノ詩句ヲ取タルヤト云リ、晋山氏云、李賀ガ詩ニ出ツト、ソノ後、全唐詩ヲ考ルニ、李長吉美人梳頭詞ニ云、西施曉夢綃帳寒、香鬢墮髻半枕檀ト云々、漁隱叢話ニモ、全首ヲ載セリ、沈檀トハ、沈香檀香ノコトナリ、鬢髻ノ香シキコトヲイヘリ、ソレヲアヤマリテ、モトヒヲキツテ、半タンニ枕ストイヘリ、墮髻ト云ハ、崔豹ガ古今注ニアリ、倭墮髻一云墮馬之餘形也ト、本國ノサダカミハ、後漢ノ墮馬髻ノ遺風ト云コトニヤ、